

都地遺跡 5

— 第 8 次調査報告 —



遺跡略号 TZI-8

調査番号 0824

2010

福岡市教育委員会

序

玄界灘に面する福岡市は、古くから大陸との文化交流の玄関口として発展してきました。そのため市内には数多くの歴史的遺産が残されており、本市におきましてはこれらの保護と活用に取り組んでいるところであります。

しかし、近年の都市開発によって貴重な先人の足跡が失われていることも事実です。本市教育委員会では開発に伴いやむを得ず失われていく埋蔵文化財について、事前に発掘調査を実施し、その記録保存に努めています。

本書は、小学校校舎増築工事に伴い実施した都地遺跡第8次調査の成果を報告するものです。今回の調査では中世～近世の集落跡が確認されました。これらは、当時の金武地区の歴史を解明する上で貴重な資料となるものです。

本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となると共に、学術研究の資料として活用頂ければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、事業者をはじめとする多くの方々の御理解と御協力を賜りました。ここに心から謝意を表します。

平成22年3月23日

福岡市教育委員会
教育長 山田 裕嗣

例言

1. 本書は、西区大字金武2028-1において、小学校校舎増築工事に伴い発掘調査を実施した都地遺跡第8次調査の調査報告書である。
2. 本書で用いた方位はすべて磁北である。
3. 本書で使用した遺構の呼称は、掘立柱建物をSB、ピットをSP、不明遺構をSXと略号化している。
4. 本書に掲載した遺構実測図の作成は今井隆博が行った。
5. 本書に掲載した遺物実測図の作成は米倉法子が行った。
6. 本書に掲載した挿図の製図は米倉、今井が行った。
7. 本書に掲載した遺構・遺物の写真撮影は今井が行った。
8. 本書に関わる遺物・記録等の全資料は、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵・保管される予定である。
9. 本書の執筆・編集は今井が行った。

本文目次

第1章 はじめに	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の組織	1
第2章 遺跡の立地と環境	2
第3章 調査の記録	5
1. 調査の概要	5
2. 遺構と遺物	5
第4章 まとめ	8

挿図目次

第1図 都地遺跡と周辺の主な遺跡 (1/25000)	2
第2図 調査地点と周辺の調査区 (1/5000)	3
第3図 調査区位置図 (1/800)	4
第4図 調査区全体図 (1/150)	折込
第5図 SB61実測図 (1/60)	5
第6図 SB62・63・64実測図 (1/60)	6
第7図 出土遺物実測図 (1/3)	7
第8図 出土銅銭 (1/1)	8

表目次

第1表 都地遺跡発掘調査一覧	3
----------------------	---

図版目次

図版1

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 調査区全景 (東より) | 2. SB63完掘状況 (西より) |
|----------------|-------------------|

図版2

- | | |
|-------------------|---------|
| 1. SB62完掘状況 (西より) | 2. 出土遺物 |
|-------------------|---------|

第1章 はじめに

1. 調査に至る経緯

平成19年10月1日、福岡市教育委員会総務部施設整備課（現教育委員会施設部施設整備課）より教育委員会文化財部埋蔵文化財第1課に対して、福岡市西区大字金武2028-1における金武小学校校舎増築工事に伴う埋蔵文化財事前審査について依頼があった。これを受けて埋蔵文化財第1課では、申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である都地遺跡に含まれており、平成10年及び平成15年の同申請地内の試掘調査で遺構が確認されていることから、保存処置が必要と判断した。施設整備課と埋蔵文化財第1課で協議を重ねた結果、記録保存のため発掘調査を実施することで合意し、平成20年7月14日から同年8月6日まで発掘調査を実施した。整理作業と報告書の刊行は平成21年度に行った。

調査番号	0824	遺跡略号	TZI-8
調査地地籍	西区大字金武2028-1	分布地図番号	都地93
開発面積	210㎡	調査実施面積	300㎡
調査期間	2008.7.14～2008.8.6	事前審査番号	19-1-80

2. 調査の組織

調査委託：福岡市教育委員会総務部施設整備課（現教育委員会施設部施設整備課）

調査主体：福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財第2課

調査総括：埋蔵文化財第2課 課長 田中壽夫
調査第1係長 杉山富雄

調査庶務：文化財管理課 管理係 井上幸江（前任） 古賀とも子（現任）

事前審査：埋蔵文化財第1課 事前審査係 星野恵美（前任） 阿部泰之（現任）

調査担当：埋蔵文化財第2課 調査第1係 今井隆博（現埋蔵文化財第1課調査係）

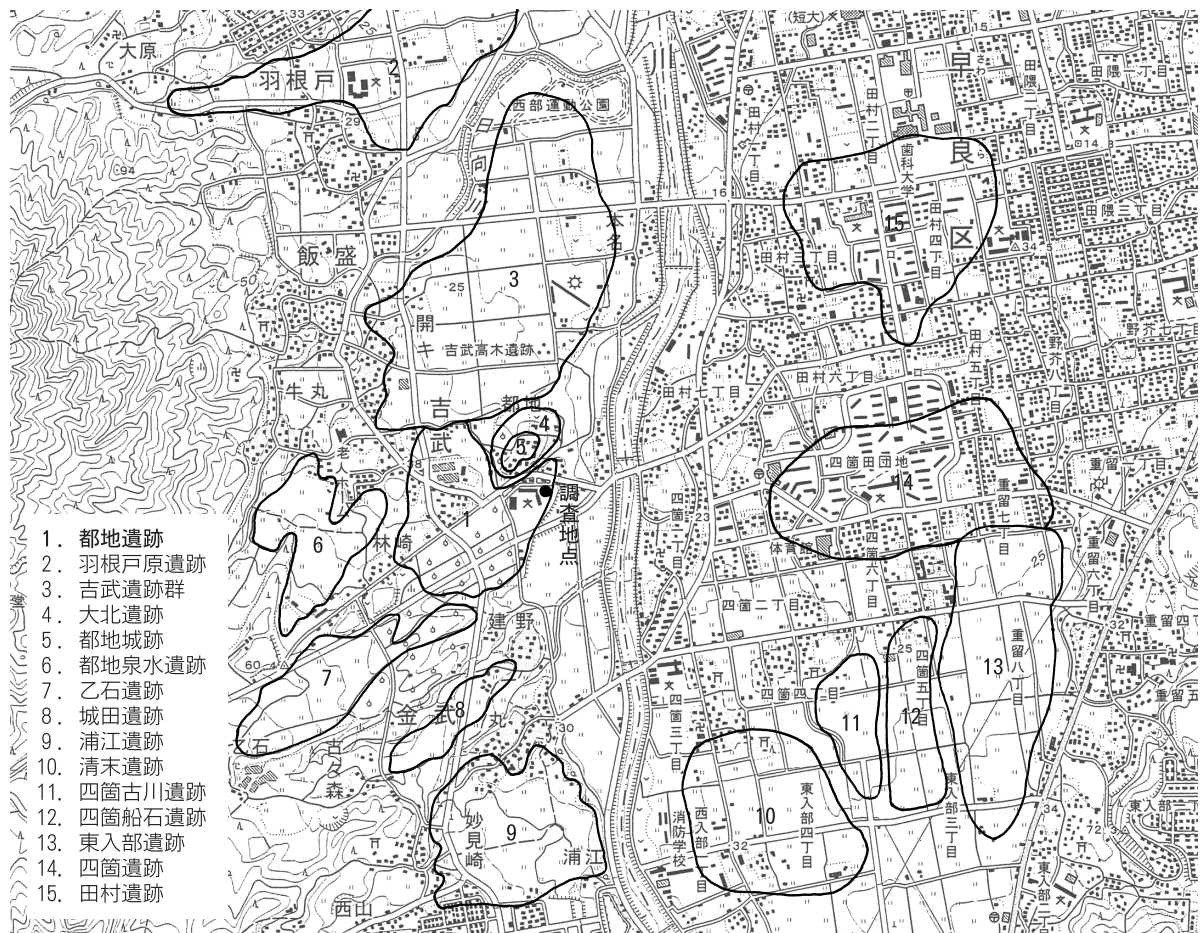
調査作業：網田美代野 田中昭子 富永遵儀 鍋山千鶴子 西藤勝喜 平田政子 森山早苗
吉田一寛 吉田勝善 吉安秀三 和田裕見子

なお、発掘作業から報告書作成に至るまで、教育委員会施設整備課、金武小学校の方々をはじめ地域住民等関係各位には多大な御協力と御理解を頂きました。記して感謝する次第です。

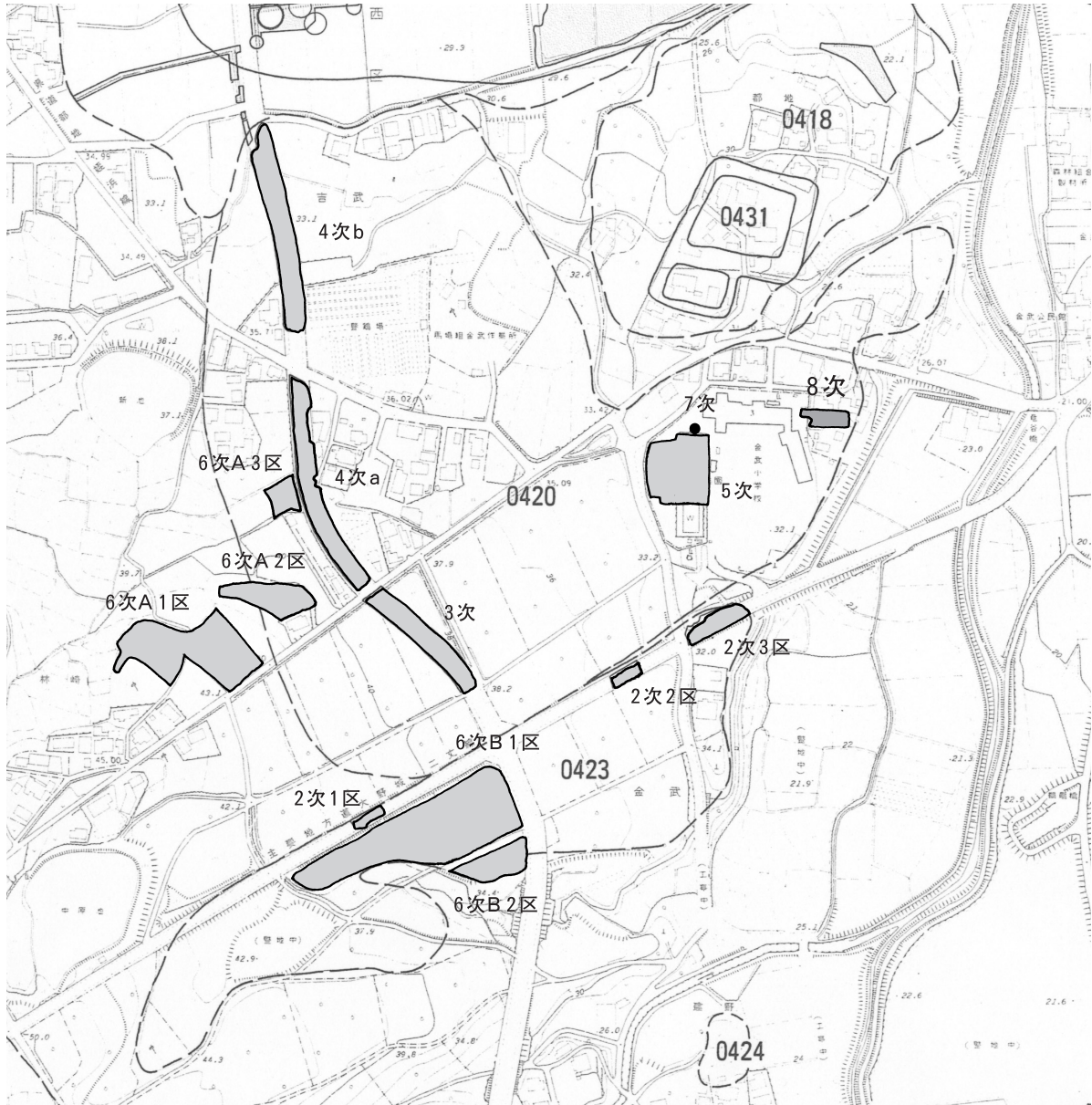
第2章 遺跡の立地と環境

都地遺跡は早良平野の南端、室見川の左岸に位置する。早良平野は脊振山系から派生した山塊・丘陵により糸島平野と画され、油山から北に延びる飯倉丘陵によって福岡平野と画される。脊振山系の西山から北へ延びる丘陵は室見川まで達して緩やかな丘陵部を形成しており、都地遺跡はその緩斜面に立地する。調査地点は室見川左岸の段丘上の突端部で、都地遺跡の東端付近に位置する。周辺には弥生時代の甕棺墓地と首長層の墓で著名な吉武遺跡群や、古代の製鉄関連遺構と大形建物群が特徴的な都地泉水遺跡、乙石遺跡、城田遺跡などがある。

都地遺跡ではこれまでに7次にわたる調査が行われている（第1表）。第1次調査では都地城跡の調査が行われており、土塁と周溝が確認された。第2次調査では弥生時代のピットや古墳時代住居址、弥生時代～中世の遺物包含層が確認されている。第3次調査では甕棺墓群や弥生～平安時代の掘立柱建物が検出され、第4次調査では古墳時代住居址、土坑、掘立柱建物、中世土壇墓、中世～近世の掘立柱建物、製鉄関連遺構、河川が確認されている。第5次調査では弥生時代土坑、古代～中世の掘立柱建物、製鉄関連遺構、溝、8世紀頃の遺物包含層が確認され、「大殿」と記された墨書土器や巡方などが出土している。第6次調査では弥生時代中期と古墳時代後期の土坑、古代の大形建物群、土壇墓などが確認されている。第7次調査は小学校敷地北西端で行われており、非常に狭い調査範囲であるが、溝、ピット、古代の包含層、鉄滓が確認されている。



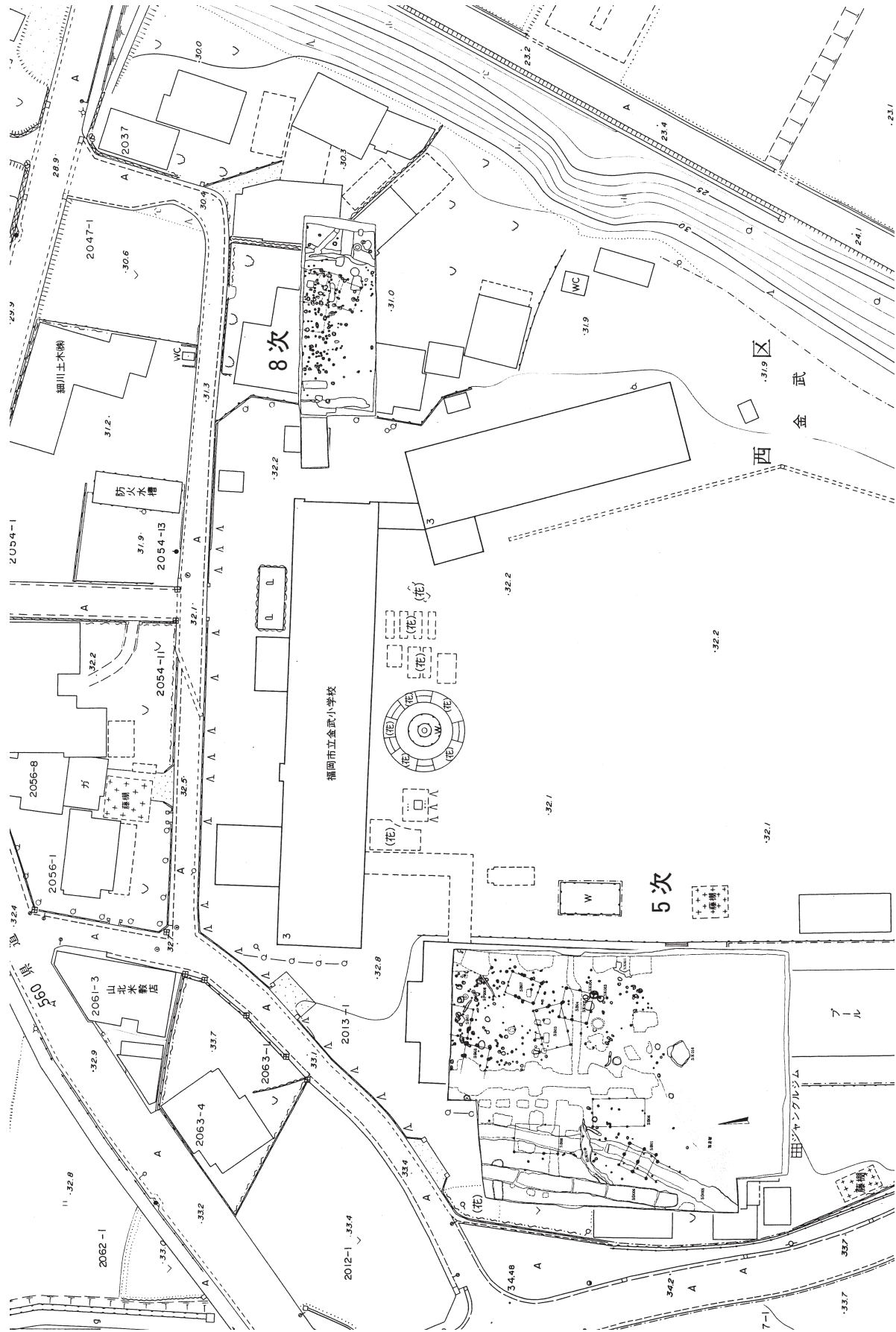
第1図 都地遺跡と周辺の主な遺跡（1/25000）



第2図 調査地点と周辺の調査区 (1/5000)

第1表 都地遺跡発掘調査一覧

調査回数	調査年度	所在地	調査原因	報告書
1次	1975年	西区金武字都地 (都地城跡)	畑地造成	—
2次	1980年	西区金武字都地	道路建設	市報74集 (1981)
3次	1983年	西区金武字都地1979	道路建設	市報186集 (1988)
4次 a	1986年	西区吉武字衣屋田	道路建設	市報223集 (1990)
4次 b	1986~1987年	西区吉武字七反田	道路建設	市報223集 (1990)
5次	1993年	西区大字金武2028-1	小学校講堂兼体育館改築	市報434集 (1995)
6次	2005~2006年	西区大字吉武・金武地内	圃場整備・区画整理	市報1016集 (2008)
7次	2007年	西区大字金武2028-1	小学校物品庫改築工事	市年報21集 (2008)
8次	2008年	西区大字金武2028-1	小学校校舎増築	市報1100集 (2010) 本書



第3図 調査区位置図 (1/800)



第4図 調査区全体図 (1/150)

第3章 調査の記録

1. 調査の概要

本調査地点は都地遺跡の北東端付近に位置する。調査前の状況は学校内農園と花壇で、標高はおおよそ31.1～31.7mである。7月14日に器材搬入と調査区の2/3の表土剥ぎを行い調査に着手した。残り1/3の部分については、通路確保の関係で夏休みに入った28日に表土剥ぎを行った。8月1日に全体写真を撮影し、6日に埋め戻しと器材の撤収を行い調査を終了した。

検出面は礫混じりの黄褐色土で、標高は西側で31.0m、東側で30.7mで、東側にゆるく傾斜する。地表から検出面までは全て現代盛土である。東壁から5mほどは近現代に深く削られている。検出した遺構は柱穴多数と焼土1ヶ所で、柱穴は掘立柱建物としてまとまるものもあった。遺物は土師器・陶磁器・鉄滓・黒曜石などがコンテナケース2箱分出土した。中世～近世が主と思われる。

2. 遺構と遺物

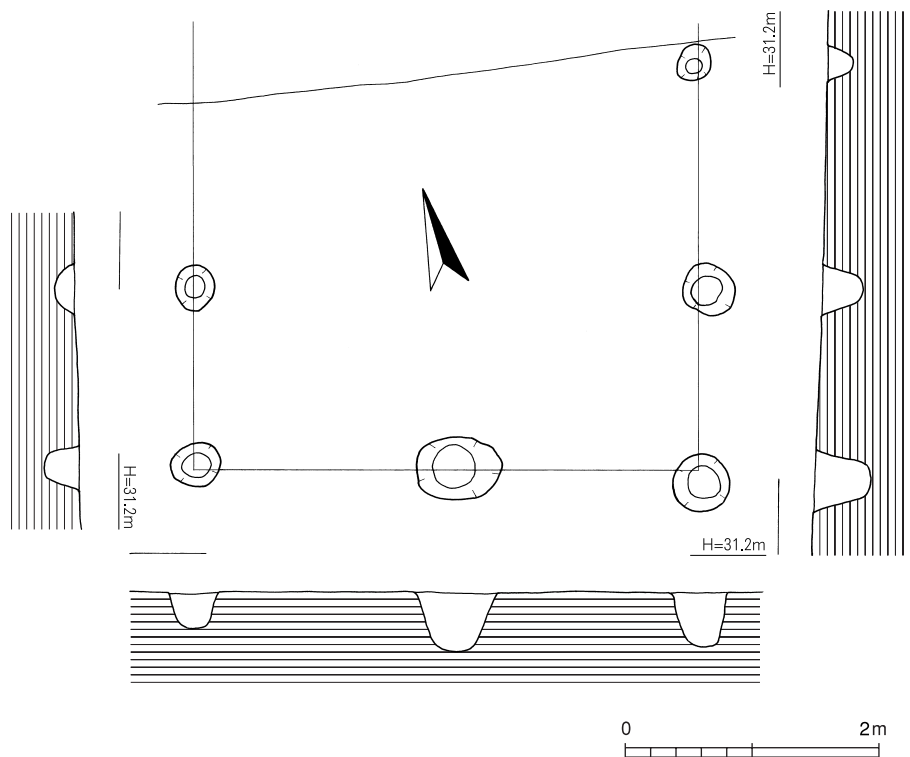
①掘立柱建物 (SB)

SB61 (第5図)

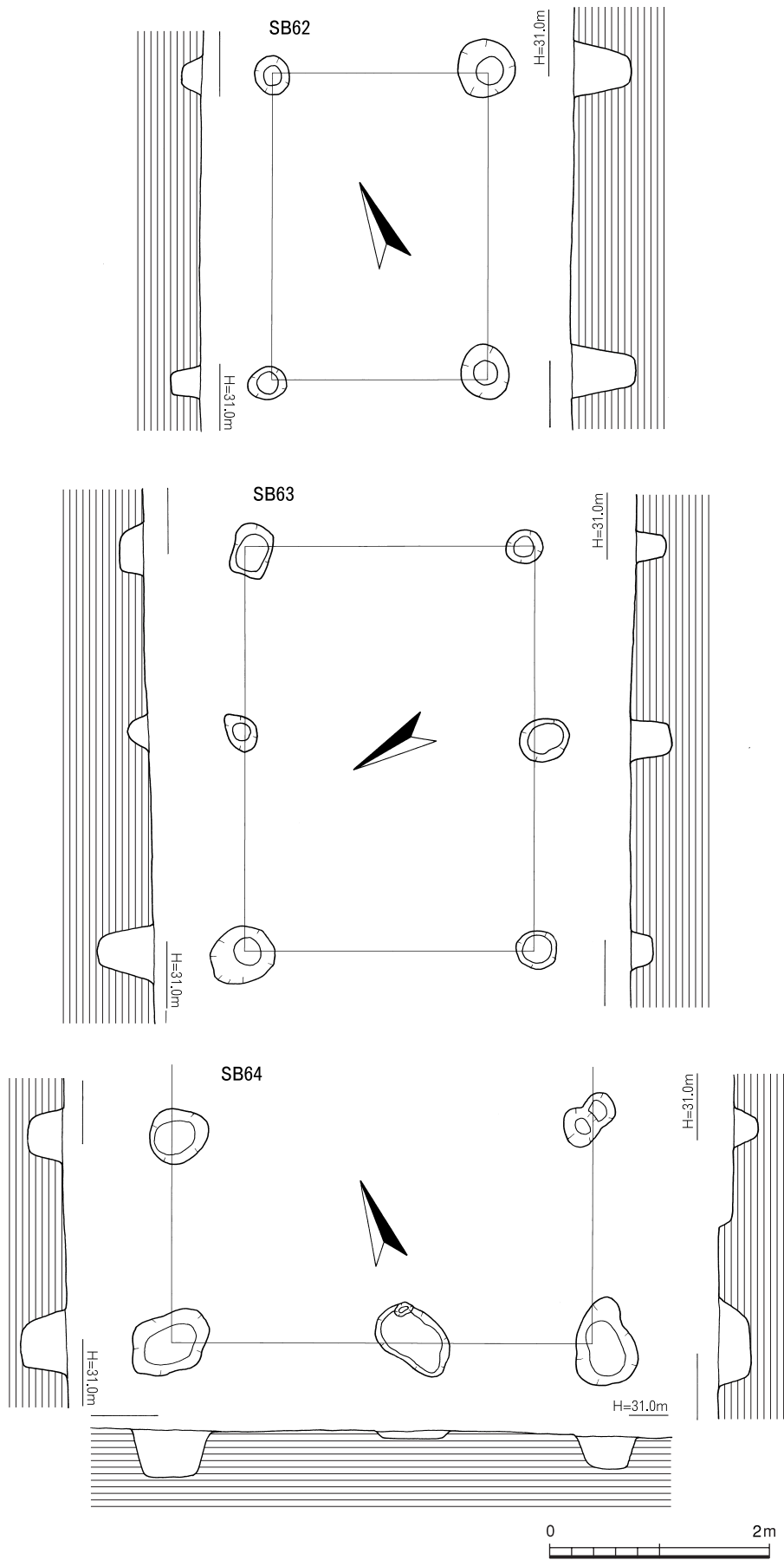
調査区中央の北壁付近で検出した2間×2間以上の掘立柱建物である。北側は調査区外に延びるため、正確な大きさは不明である。柱穴の大きさは30～60cm前後で、深さ15～50cm、覆土は暗褐色土である。柱穴からの出土遺物は土師器・陶器の小片少量である。

SB62 (第6図、図版2-1)

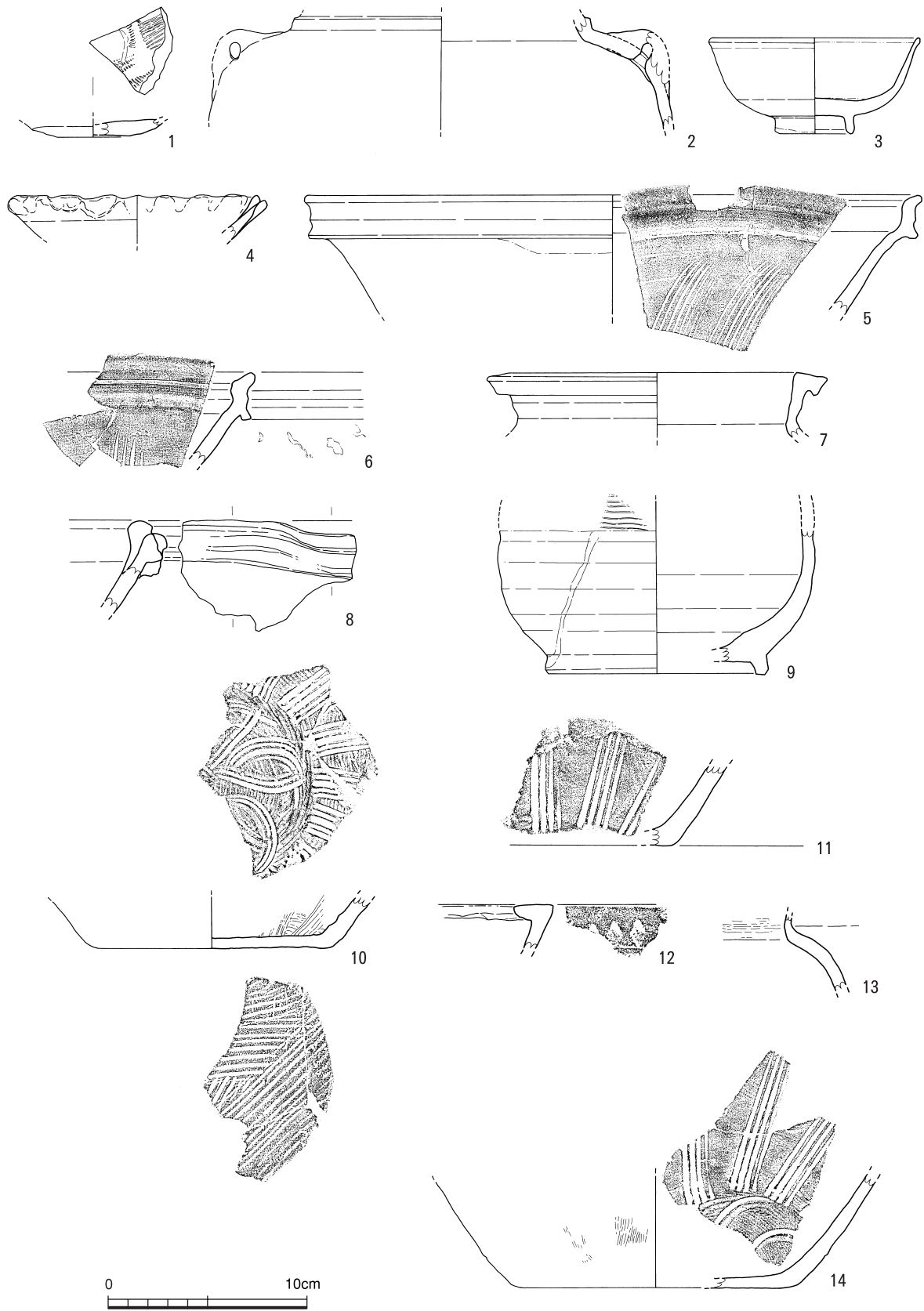
SB61の東側で検出した1間×1間の掘立柱建物である。柱穴の大きさは30～50cmで、深さ20～50cm、覆土は暗褐色土である。柱穴からの出土遺物は土師器・陶器の小片少量である。



第5図 SB61実測図(1/60)



第 6 図 SB62・63・64実測図 (1/60)



第7图 出土遺物実測図 (1/3)

SB63（第6図、図版1-2）

SB62の南側で検出した1間×2間の掘立柱建物である。柱穴の大きさは30～60cmで、深さ20～50cm、覆土は暗褐色土である。柱穴からは土師器小片が少量出土したのみである。

SB64（第6図）

SB61の東側で検出した2間×2間以上の掘立柱建物である。北側は調査区外に延びるため、正確な大きさは不明である。SB62と切り合うが、前後関係は分からない。柱穴の大きさは50～80cmで、他の建物に比べるとやや大きい。深さは10～40cmで、覆土は暗褐色土である。柱穴からの出土遺物は土師器・陶器の小片少量である。

②ピット出土遺物（第7図）

1・2はSP12からの出土である。1は同安窯系青磁皿で、復元底径は3.8cm。外面は全面施釉後に底部外面の釉を掻き取る。内面には櫛描文様が見られる。2は土師質土器の釜。頸部の復元径は15.0cm。胴部上位には双耳を有し、穿孔が施されている。3はSP22の出土で、近世の磁器碗。口径10.6cm、器高4.0cmでほぼ完形である。外面は赤褐色釉で、内面は白色。内面見込みは輪状に釉を掻き取り、高台畳付部分も重ね焼きのために釉を掻き取っている。4はSP35からの出土で、陶器の鉢か。復元口径13.0cm、灰オリーブ色の透明釉がかかる。口縁部は細かな波状になっている。

③不明遺構（SX）

SX65

調査区中央の南壁際で検出した焼土である。30cm程の範囲がわずかに焼けていた。製鉄関連遺構の可能性もあるが、周辺は削平を受けているものと思われ、遺存状態は悪く詳細不明である。

④その他の出土遺物（第7図、第8図）

5～13は攪乱と思われるSX01から出土した。5・6は陶器の播鉢である。5は復元口径31.0cm、残存器高7.0cmである。口縁部にはにぶい赤褐色釉がかかり、内面の播目の単位は8本である。7は緑釉の陶器壺である。復元口径17.0cm、残存器高3.0cmを測る。8は無釉の陶器鉢の口縁部片である。9は陶器の瓶であろうか。復元底径11.2cm、残存器高9.0cmを測る。外面には暗赤褐色の釉がかかり、胴部上位には白色釉が施釉され、その上に波状文様が施されている。10は土師質の播鉢である。復元底径12.0cm、残存器高2.7cm。内面には5本単位の播目、見込みと底部外面にもハケ状工具で文様を施している。11は土師質の播鉢で、内面の播目は4本単位である。12は土師質の火舎であろうか。口縁部外面には菱形のスタンプが見られる。13は土師質の壺の頸部、14は土師質の播鉢である。復元底径14.6cm、残存器高5.8cmである。内面には4本単位の播目が見られる。攪乱と思われるSX02から出土した。15は寛永通宝で、ほぼ完形である。攪乱であるSX13から出土した。



15

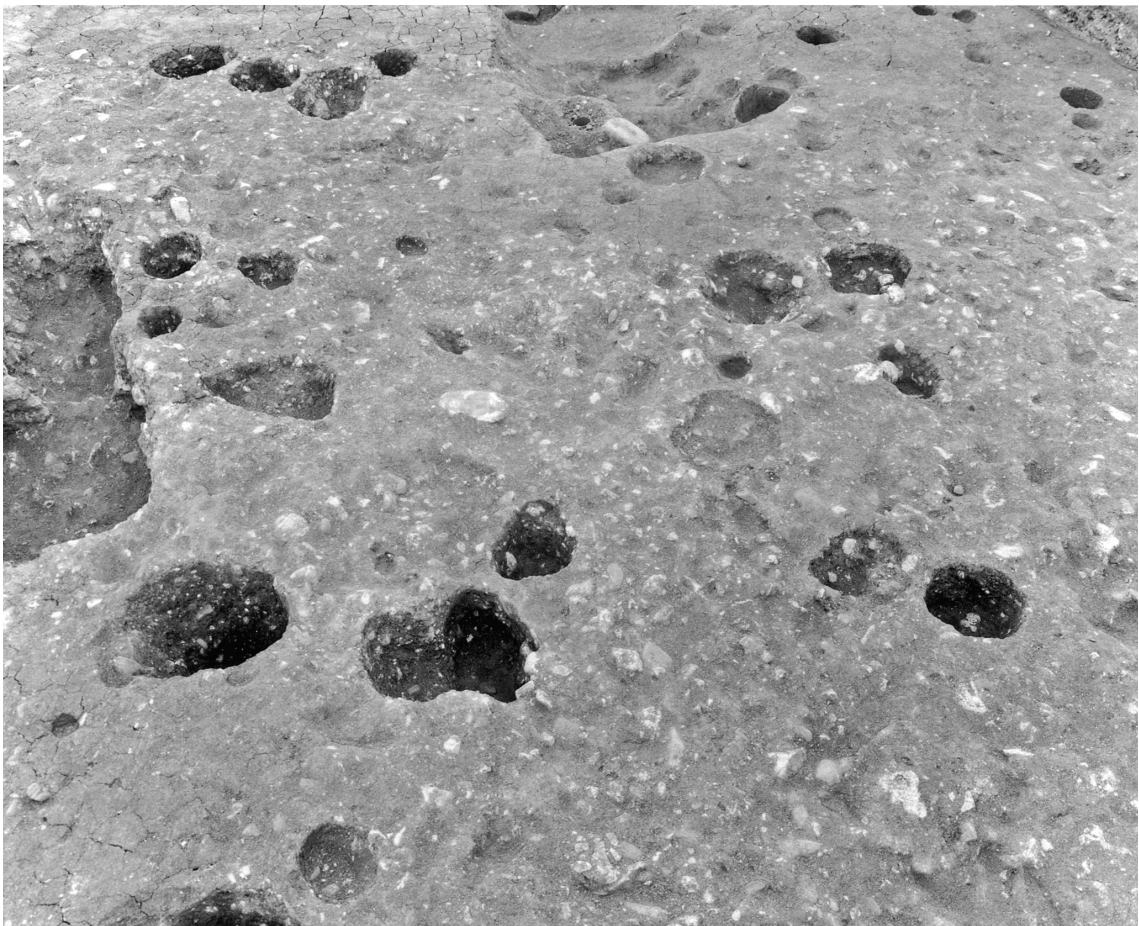
第8図 出土銅銭（1/1）

第4章 まとめ

周辺の調査では弥生～中世の集落・墓地・包含層が確認されているが、本地点では明確にそれらの時代と判断できる遺構は確認できなかった。掘立柱建物は4軒復原したものの出土遺物が少なく、時期ははっきりしない。中世～近世の可能性が高いと考えている。SX65で焼土を検出したが、わずかな遺存状況のうえに本調査では鉄滓が2点しか出土しておらず、第5次調査のような製鉄関連の痕跡は把握できなかった。調査区の南西部分は遺構が少なく、浅いものが多い。削平により失われたのであろう。一方調査区の北側にはさらに遺構が広がるものと思われる。



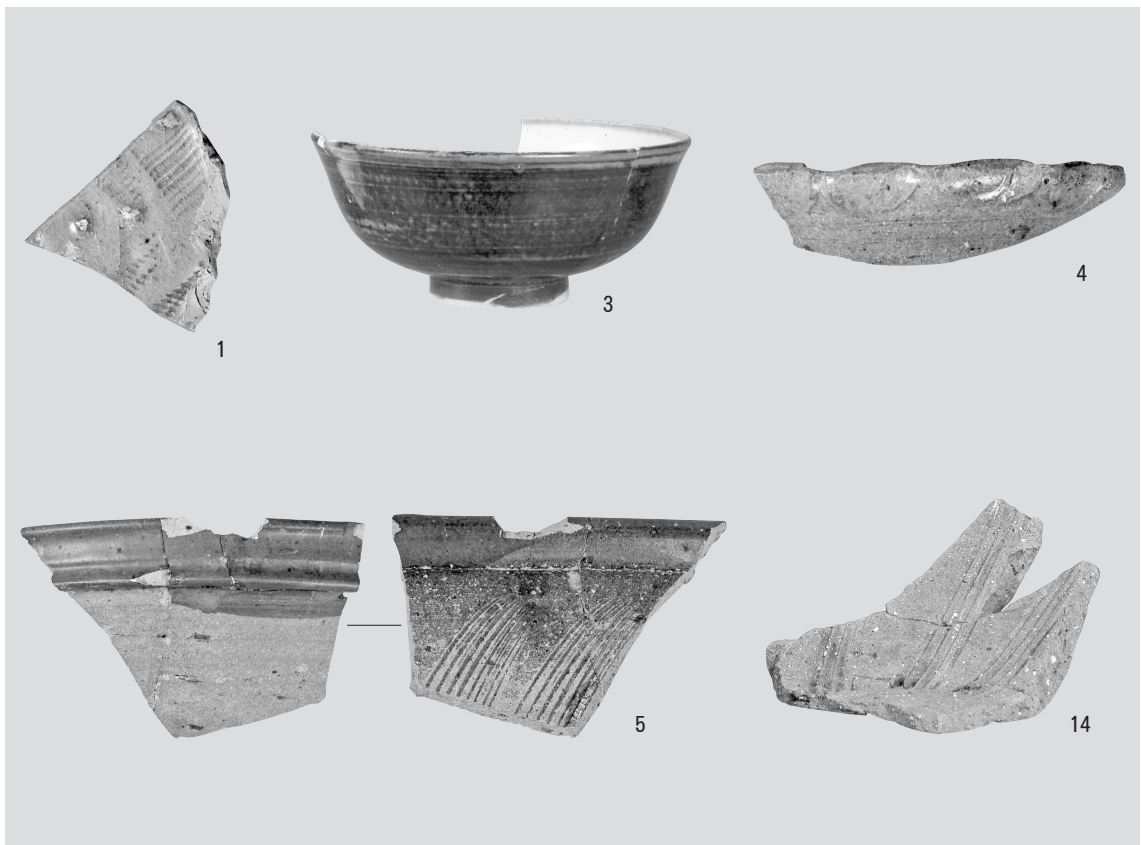
1. 調査区全景（東より）



2. SB63完掘状況（西より）



1. SB62完掘状況（西より）



2. 出土遺物（縮尺不同）

報告書抄録

ふりがな	とじいせき 5				
書名	都地遺跡 5				
副書名	第 8 次調査報告				
巻次					
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書				
シリーズ番号	1100				
編集者名	今井隆博				
編集機関	福岡市教育委員会				
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神1-8-1				
発行年月日	2010年3月23日				
調査期間	2008年7月14日 ~ 2008年8月6日				
調査面積	300㎡				
調査原因	小学校校舎増築				
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (世界測地系)	東経 (世界測地系)
		市町村	遺跡番号		
とじいせき 都地遺跡 第 8 次	ふくおかけんふくおかしにしゅう 福岡県福岡市西区 おおあざかなたけ 大字金武2028-1	40135	0420	33°32'01"	130°19'10"
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
都地遺跡 第 8 次	集落	古代 中世 近世	掘立柱建物 4 焼土 1	土師器 陶磁器 銅銭	中世～近世と思われる掘立柱 建物と、製鉄関連遺構の可能 性がある焼土を確認した。

都地遺跡 5

— 第 8 次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1100集

2010年（平成22年）3月23日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神 1 丁目 8 番 1 号
TEL (092) 711-4667

印刷 協文社印刷株式会社
福岡市西区小戸 4 丁目24番 5 号
TEL (092) 891-0411

